

拳ノ川小学校

「拳ノ川の未来を拓く
児童の育成」

校長 川村 美香

◆はじめに

この春に4名の新入生を迎え、全校児童18名、教職員8名で教育活動をスタートしました。学級数は、複式学級3、特別支援学級1の4学級編成で、日々の授業はもちろん、委員会活動や児童会活動、学校行事などを、みんなで協力し合いながら、元気に取り組んでいます。また、保護者および地域全体がとて温かく協力的で、各種行事や学習活動に積極的に関わってくださり、交流を深めながら、故郷の素晴らしさを知り誇りに思う心、故郷を愛する心の育成につなげています。



◆学校教育目標

「確かな学力を備え、豊かな心を持ち、体力に富み、主体的に活動する拳の子」

チーム学校として、指導力、想像力、創造力、組織力を発揮し、「知」「徳」「体」のバランスのとれた教育を実践し積み重ねることで、児童の「生きる力」を育み、保護者や地域に愛され、信頼される学校づくりをめざします。

◆めざす学校像

- 児童が自主的・主体的に活動し、活気に満ちた学校
- やさしく、思いやりの心があふれた学校
- 環境が整備され、安全で安心な学校
- 教職員が互いに高め合い、協働できる学校
- 地域に開かれ、地域から信頼される学校

◆めざす児童像

- ① 心やさしい子
- ② ふるさとを誇れる子
- ③ 主体的に活動する子
- ④ 能力を出し切る子
- ⑤ 体をきたえる子
- ⑥ 和を大切にする子



◆確かな学力を〈知〉

本年度の研究テーマを、「主体的・協働的に学ぶ子どもを育てる」

「聴き、考え、表現する複式の授業を通して」とし、算数科および生活科を中心に研究を進めることで、授業スタンダードの確立と、UDおよび生徒指導の三機能の視点に立った授業構成の工夫、タブレットなどICT機器の積極的な活用、ノート指導、綴り方集会の実施、自主学習の質の向上、読書指導、学習環境の整備など、少人数の良さを活かしながら学力課題の解決に向けて取組を進めています。

◆豊かな心を〈徳〉

人権教育・道徳教育を核に、全ての教育場面で、共に認め合う場の設定や肯定的評価を積極的に取り入れることで、自尊感情および自己肯定感の高揚を図っています。また、さまざまな教育活動で人間性を育むのはもちろんですが、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の活動と高知大学が企画運営する水曜放課

後プロジェクトの活動にもリンクさせながら、心の育成を図っています。

学校運営協議会の活動
(学校・家庭・地域)

- 田畑での生産活動
- 楮こうぞの栽培と和紙作り
- 学校地域合同運動会
- 読み聞かせ
- 収穫祭 など

地域に触れ合いかわり合う体験活動の実施が、郷土愛も含め、教科指導では学びきれない、多くのことを学ぶ大切な時間になっています。

水曜放課後プロジェクト
(毎月1回程度の企画運営)
毎回、地域の豊かな自然を活かした活動を企画運営することで、児童および地域と交流が図られ、児童の豊かな心の育成にもつなげていくれています。

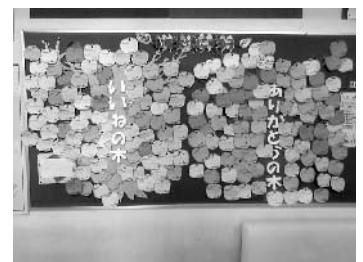


◆体力に富み〈体〉

毎朝のマラソンが、1日のスタートです。走った周数を表に記入し可視化することで児童自身に目標を持たせ、意欲化を図りながら体力の向上をめざしています。また、補助教材を活用した授業実践はもちろん、体育的要素を取り入れた全校レクリエーションを毎週実施するなど楽しみながら体力および運動技能の向上をめざした取組も進めています。

◆おわりに

今後もチーム拳ノ川として、「命を尊び、故郷を愛し誇りに思う心を、社会でたくましく生きる力を、明るい未来を創造できる児童」の育成に向けて、取組を進めていきたいと考えています。



大方中学校

「夢・志の実現に向けて」

校長 宮崎 史和

◆はじめに

今年度の大方中学校は、40名の新1年生、そして夏休みには転校生を迎え、現在全校生徒137名で、学校生活を過ごしています。

本校は、学校教育目標を「夢・志の実現」自立と挑戦」と設定し、今年で2年目を迎えました。今年度は、この学校教育目標達成に向けた学校経営理念を「人が育つ学校」大方中学校で学ぶことで、生徒が育つ。大方中学校で働くことで教職員が育つ学校」と設定しています。生徒たちは、大方中学校で仲間と協力しながら学ぶことを通じて成長し、自らの夢・志が実現できる。教職員は、生徒の夢・志の実現に向けて自己の指導方法を工夫・改善していくことで、自らも成長していく学校をめざしています。

◆「夢・志」の実現のために

次代を担う生徒が「自ら

の夢・志を実現するために、そして、社会に貢献できる人として育っていくためには、生徒一人ひとりに黒潮町の教育理念である「自立・協働・創造」できる力を育成することが必要です。そのためにも大方中学校の重点取組のなかから、今回は「授業で力をつける」「安心・安全な環境をつくる」取組を紹介いたします。

◆授業で力をつける

日々の学校生活のなかで、生徒が最も長く過ごしている時間が授業です。授業の時間こそが、生徒の力を伸ばし、成長する時間となるよう、研究主題を「見方・考え方を鍛える指導方法の工夫と改善」チーム大で行う組織的・日常的な授業改善の取組を通して」と設定し、「見方・考え方」を授業づくりの柱に据えて取り組んでいます。

生徒が主体的・協働的な学びを進めていけるよう「生



徒から問いを引き出し、めあてを設定すること」、「その問いの解決に向けた各教科の見方・考え方を働かせる場面を設定すること」、「生徒自身が必要な情報を選択したり、根拠を基に自分の考えを伝え合ったりする場面を設定すること」の3つを教科共通の取組として授業に位置づけるようにしています。

また今年度は、ICT機器を活用し、授業の中で一人ひとりの生徒が自分の考えを表現する場、友達の考えを共有する場を設定しています。これまでは、指名された生徒だけの考えしか知ることができませんでしたが、ICTを活用することで、瞬時にクラス全員が考えや表現を共有することができ、友だちの表現や考え方を知らず、自分の考えが広がり、表現が高まったりする機会が増えていきます。このように個々の考えを表現・共有することは、生徒指導の三機能である「自己決定の場」や「自己存在感を感じる場」、「共感的な人間関係を育成する場」につな

がっていきます。以上のように、「見方・考え方」と「生徒指導の三機能」を位置付けた授業づくりを通して、生徒の力が高まっていく授業をめざしています。

◆安心・安全な環境をつくる

自分の学級が安心して学べる生徒、教室以外の方が安心して学べる生徒など、安心して過ごせる場所は生徒によって違います。大切なのは、一人ひとりに安心して過ごせる場所があるということです。本校には、教室以外に安心して学べ、過ごせる場所として、校内サポートルーム「ひまわりルーム」があります。サポートルームコーディネーターが中心となり、一人ひとりのニーズにあった学びを提供できる環境づくりに努め、生徒たちは、自分の夢の実現に向けて、自分のペ

ースを大切にしながら学んでいます。また、総合的な学習の時間を中心に、



修学旅行や宿泊研修など学校行事のなかにも、防災学習を位置付け、いかなる状況下であっても、自らの命を守りきれ生徒の育成に向けて安全教育にも力を入れていきます。避難訓練についても、校内だけでなく遠足の間など多様な状況設定や、4年振りに保・小・中・高が校種を越えて連携して行うなど、自助・共助の視点を踏まえた安全教育に取り組んでいます。

◆おわりに

今年度は、本校職員の不祥事により、生徒、保護者、地域の皆さんに大変ご心配をおかけしましたことを、心からお詫び申し上げます。教職員一同、信頼される学校、安心できる学校となるよう、頑張っていく所存です。そして、137名の生徒一人ひとりの成長を信じ、支え、それぞれの夢・志が実現していくよう頑張っていきます。

